



熊本県版

No. 245

治安維持法犠牲者

国家賠償要求同盟

熊本県本部

〒862-0954

熊本市中央区神水

1-30-7 コモン神水

☎096-381-1807

## 運動の基本

- ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために
- 一、治安維持法体制の復活に反対する。
  - 二、国は戦前の治安維持法が人道に反する悪法であることを認めること。
  - 三、国は、治安維持法の犠牲者に謝罪と賠償を行うこと。

## 憲法も民主主義もふみにじる暴挙 なぜ強行する、憲法違反の「国葬」

岸田自公政権が9月27日に強行しようとしている故安倍元首相の「国葬」に対する国民の批判はますます高まり、収まる気配もありません。最新の主要メディアの世論調査でいずれも「反対」が60%を超え、賛成を大きく上回っています。

岸田首相は国葬の理由として相変わらず、安倍氏が8年8ヶ月首相を務めた、内政、外交で大きな成果をあげた、選挙中に凶弾に斃れたということを繰り返し強調していますが、世論調査のたびに反対の声が増えている事実が多くの国民がそれに納得していないことを示しています。

自民党の二階前幹事長などは「みんな黙って手を合わせ

て見送ってあげたらいい」、「国葬がどうか議論すべきじゃない。控えるべきだ」、「終わったら反対していた人たちも必ず良かったと思うはず、日本人ならね」などと言いつつ、自由な議論を押さえつけ、まるで国葬に反対するのは非国民だと言わんばかりの態度に厳しい批判があがっています。

熊本でも8月29日に熊本市で「国葬やめる」の緊急集会が行われ、100人以上がはせ参じましたが、国葬前日の9月26日にはさらに大規模な「国葬反対」の集会とデモが行われる予定です。

全国的には8月31日に国会前での緊急集会に4,00

0人がかけつけ、9月19日にはさらに多くの13、000人が代々木公園で「国葬やめろ」の大集会を開きました。国葬当日には同時刻に国会前でより大規模な抗議集会が計画されています。

岸田自公政権はこれほど批判渦巻く「国葬」になぜこだわるのでしょうか。あくまでも国民多数の反対を押し切つて国葬を強行するならば必ず国民の厳しい反撃にあい、自滅への道を進むことになるだろうことを覚悟すべきでしょう。



## 10月選挙の宇土市議選候補

### 福田けい一議員を訪問し、激励

小田憲郎会長、関根隆事務局長は9月5日、国賠同盟会員で、10月16日投票で行われる宇土市議会議員選挙に立候補を予定している福田けい一市議会議員の事務所を訪問し、「祈必勝」の為書きを贈って激励するとともに、懇談しました。

福田けい一議員は現在8期目で、9期目への挑戦です。市議選に向けて共産党宇城委員会が取り組んでいる「市民アンケート」への回答は「給料は上がらないのに物価はどんどん上がって暮らしが大変」「医療費を高校3年まで無料にして」「小学校、中学校の給食費を無料にして」「小さい子供を安心して遊ばせられる公園を」など約4割が40歳代以下の若い人というのが際立った特徴だそうです。また高齢者からは「物価はどんどん上がるのに年金は下がる一方。何とかして」「年金が下げられた上に医療費が2割負担になるのは納得いかない。医療費2倍化は中止して」など切実な声が多く、福田氏は「今回も何としても議席を獲得し、こうした市民の願いにこたえたい」と決意を語っていました。

スクランブル交差点（話題を追って）

## 「戦前」と「戦後」の77年を考える

今年、1945年の終戦を境にすると戦前の起点1868年の明治維新から77年、終戦の年から2022年の今年が77年と同じ年数を刻んでいます。そのことにどれほどの意味があるのか、専門家ではないので計り知れませんが歴史を学び、未来を考えるうえで意味があるのではないのでしょうか。

私の場合、体験的に記憶されているのはベトナム戦争の頃からで、戦後は何とか断片的に思い出せるのですが、戦前となると学んだつもりで意外とそれぞれの事象のつながりがぼんやりしてしまい、結果として漠然としかたえられていないことに気づきます。

戦前と戦後の77年を比較して思うことを記します。

① 戦前の国体は天皇絶対主義の立憲君主国家、戦後は日米安保体制下の対米従属国家である。それぞれ混乱を鎮めるまで6〜7年要し、戦前は初めての侵略、台湾出兵をバネに達成し、戦後は占領下憲法が制定されませんが、冷戦構造により日本の戦後をより決定づけたのは米国との単独講和、日米安保条約の締結でした。民

衆弾圧法も戦前は新聞紙条例と讒謗律を初めとして乱発されます、戦後は破防法とセツトでした。

② 戦前はずつと戦争と治安弾圧の歴史でした。戦後は米国にとる侵略戦争の歴史の中で日本は重要な出撃拠点となり、憲法の解釈すれすれで従属し続けました。

③ 最期の20年はむき出しの戦争準備の中にあり、戦前は破局へとまっしぐらとなりました。1925年治安維持法を公布し、民衆の声を残らず弾圧し、全面戦争に突入していきました。戦後は2001年の米国への同時多発テロを口実に、米国は中東の国々を侵略し、日本をアメリカと一緒に戦争できる国へと急速に変えてきました。安倍自民政権は米国の期待に応え、日米軍事同盟の体制づくりにも最も忠実に実行しました。

④ そして今、私たちが問われています。戦後77年は締めくくりになるのか。憲法をめぐって依然せめぎあいの真ただ中です。自民党の言うままに憲法改悪を許し、日米軍事同盟のもとで、日本が戦争当事国になるのか、平和憲法を守り、憲法の内容実現を目指し諸国民と連帯するのか、分かれ道は今です。（関根）

10月10日の総会にご参加を！



# 治安維持法国賠同盟熊本県本部総会 & 講演会

参加費無料

映画『わが青春つきるとも 伊藤千代子の生涯』の原作者

講師

# 藤田 廣 登 氏



20. 11. 15 熊本にて千代子を熱く語る藤田氏



今こそ伊藤千代子の不屈の生きざまに学び  
改憲、戦争を許さない草の根の闘いを!!

参院選の結果、改憲勢力が衆院につづいて参院でも3分の2を占める事態になりました。今こそ、あの戦争が、そして治安維持法が猛威をふるったその時代がどんなにひどいものであったかを再確認し、伝え、広げる草の根の力を強めることが決定的に重要になっていきます。

映画「わが青春つきるとも 伊藤千代子の生涯」は、治安維持法で投獄され、わずか24歳で獄死させられた伊藤千代子という若い女性

の生きざまを通して戦争と平和、そして人間が真に「生きる」ということの意味を問いかけてます。その映画「伊藤千代子の生涯」の原作者・藤田廣登氏を迎えて講演会を開催します。藤田氏はこの間、全国を回って上映運動の先頭に立ってこられた方ですので全国の最新情報もお聴きできるものと思います。国賠同盟の会員はもちろん、会員でない方もご参加も歓迎いたします。

2022年  
10月10日(月・祝)

午後2時 国賠同盟総会  
午後2時45分 記念講演  
県民交流館パリア第7会議室(10階)  
熊本市水道町交差点角(鶴屋3C)

主催・治安維持法犠牲者国賠同盟熊本県本部  
〒862-0954 熊本市中央区神水 1-30-7 ☎096-381-1807  
(問い合わせは) 090-5380-9451 (小田) 090-1366-5004 (関根) へ